

## 社説

<2022.12.15>

記事を読んで、問いに答えなさい。

### プラごみ海洋汚染

### 自分事として考えよう

不適切な管理のプラスチックごみが今後約20年間で倍増し、地球環境に深刻な影響を及ぼすとの報告書を国連環境計画がまとめた。プラごみの削減は資源を有効活用し、自然と共生する循環型社会の進化に欠かせない。私たちは自分事として国連報告を受け止めたい。

報告書によると、不適切管理のプラごみは世界全体で2015年に6千万トン、9900万トンに上った。このうち1100万トンが海に、3100万トンが陸にとどまり、4900万トンが野外焼却された。こうしたプラごみは40年に2・5倍に増加し、対策を強化しなければ、海洋流出は2300万〜3700万トンに増える。

プラごみは自然分解が困難で、海洋に長期漂う。やがて微細なマイクロ

プラスチックとなり、含有、吸着する化学物質とともに魚類などの食物連鎖に取り込まれ、人の口に入ることがある。動植物は互いに影響し合い、時間をかけて進化し、生物多様性と称される調和を維持している。プラごみは地球温暖化とともに、生物多様性に甚大な悪影響を及ぼす。

国内では不法投棄防止に加え、ラブリの削減、過剰包装の抑止など身近な対策が求められる。レジ袋が有料化されて2年が経過した。マイバッグは普及したがレジ袋は使い捨てプラスチックのごく一部。静岡県は「できることから始めよう」をキャッチフレーズに

海洋プラごみ防止6R県民運動を展開している。国が提唱するリデュース(減らす)、リユース(繰り返し使う)、リサイクル(再資源化)の3Rに、リフュース(断る)、リターン(戻す)、リ

カバー(回復させる)を加えた。本県の長い海岸線を踏まえ、率先して海洋環境保全に取り組み姿勢を明示した。ごみ削減で、拡大生産者責任が重視されるようになった。環境保護への企業責任は製品がごみになった時点まで及ぶとの考え方だ。日本政府はプラスチック資源循環促進法を制定し、スーパーやストロ、歯ブラシなどの日用品の使い捨て製品を指定し、削減対策を事業者に義務付けた。

脱炭素化など、環境保全を巡る問題は複雑多様化している。プラごみ削減やリサイクル、廃棄物回収を効率化するため、拡大生産者責任の理念を踏まえ、自治体と企業、消費者の協働がますます大切になってきた。

もとより、海洋環境の保全は沿岸地域だけの課題ではない。豊かな森と川が、豊かな海をつくる。持続可能な生活様式の実践に向け、静岡県や市町は地域の環境特性に応じた計画を策定し、啓発活動を活性化させてほしい。

①「自分事として考える」とは、どういうことですか。

②プラスチックごみが海洋汚染の原因となっている理由を書きましょう。

③プラごみを少しでも減らすために行っていることは何でしょうか。

作問者：NIEアドバイザー 中村都(静岡市立麻機小学校 教諭)

(中学校～高校/総合)

## 社説

<2022.12.15>

記事を読んで、問いに答えなさい。

①「自分事として考える」とは、どういうことですか。

- ・「もし自分だったら～」として捉え、考えていくということ。
- ・自分には関係ないことではなく、もっと身近なこととして捉えていくこと。

②プラスチックごみが海洋汚染の原因となっている理由を書きましょう。

- ・自然分解が困難で、海洋に長期間漂う。
- ・やがて微細なマイクロプラスチックとなり、魚類などの食物連鎖に取り込まれ、人の口に入る。

③プラスチックを少しでも減らすために行っていることは何でしょうか。

- ・静岡県はリデュース、リユース、リサイクルの3Rに加え、リフューズ、リターン、リカバーを加えた。
- ・レジ袋の有料化
- ・プラスチック資源循環促進法を制定し、スプーンやストロー、歯ブラシなどの使い捨て製品を指定し、削減対策を事業者に義務づけた。

### プラスチック海洋汚染

不適切な管理のプラスチックごみが今後約20年間で倍増し、地球環境に深刻な影響を及ぼすとの報告書を国連環境計画がまとめた。プラスチックの削減は資源を有効活用し、自然と共生する循環型社会の進화에欠かせない。私たちは自分事として国連報告を受け止めたい。

報告書によると、不適切管理のプラスチックは世界全体で2015年に6千万トン、9900万トンに上った。このうち1100万トンが海に、3100万トンが陸にとどまり、4900万トンが野外焼却された。こうしたプラスチックは40年に2・5倍に増加し、対策を強化しなければ、海洋流出は2300万〜3700万トンに増える。

プラスチックとなり、含有、吸着する化学物質とともに魚類などの食物連鎖に取り込まれ、人の口に入ることがある。動植物は互いに影響し合い、時間をかけて進化し、生物多様性と称される調和を維持している。プラスチックは地球温暖化とともに、生物多様性に甚大な悪影響を及ぼす。

国内では不法投棄防止に加え、プラスチックの削減、過剰包装の抑止など身近な対策が求められる。レジ袋が有料化されて2年が経過した。マイバッグは普及したがレジ袋は使い捨てプラスチックのごく一部。静岡県は「できることから始めよう」をキャッチフレーズに海洋プラスチック防止6R県民運動を展開している。国が提唱するリデュース(減らす)、リユース(繰り返し使う)、リサイクル(再資源化)の3Rに、リフューズ(断る)、リターン(戻す)、リカバリー(回復させる)を加えた。本県の長い海岸線を踏まえ、率先して海洋環境保全に取り組む姿勢を明示した。ごみ削減で、拡大生産者責任が重視されるようになった。環境保護への企業責任は製品がごみになった時点まで及ぶとの考え方だ。日本政府はプラスチック資源循環促進法を制定し、スプーンやストロー、歯ブラシなどの日用品の使い捨て製品を指定し、削減対策を事業者に義務付けた。

脱炭素化など、環境保全を巡る問題は複雑多様化している。プラスチック削減やリサイクル、廃棄物回収を効率化するため、拡大生産者責任の理念を踏まえ、自治体と企業、消費者の協働がますます大切になってきた。

もとより、海洋環境の保全は沿岸地域だけの課題ではない。豊かな森と川が、豊かな海をつくる。持続可能な生活様式の実践に向け、静岡県や市町は地域の環境特性に応じた計画を策定し、啓発活動を活性化させてほしい。

### 自分事として考えよう